



デンマークのコロナ対策「コロナパス」の先進性



コロナ対策の陣頭指揮をとる
 mette・フレデリクセン首相

デンマーク政府は比較的早い段階から、ロックダウンによって感染者数を抑えた後は、大規模な検査体制を整えることで「コロナ検査で陰性の人」と「ワクチン接種済みの人」とで、社会の通常化を早期に目指す、という構想を掲げていた。

そのツールとして導入したのが、「コロナパス (パスポート)」と呼ばれるデジタル証明。デンマークが欧州の中でも早く社会再開にこぎつけたのは、コロナパスを早期に整備できたことが大きい。

コロナパスは、①ワクチン接種済み ②72 時間以内に受けたコロナ検査で陰性 ③陽性判定から 14~180 日以内 のいずれかであることを、医療ポータルアプリで示すもの。これがないと、カフェやレストラン、美容室、図書館などにも行けないので、社会の再開はコロナパスとセットである。

デンマークは、国連の世界電子政府ランキングでもたびたび 1 位に選ばれるデジタル先進国である。日本のマイナンバーにあたる「CPR (社会保障) 番号」は、1968 年に導入済みで、出生届や引っ越しの手続きなど、投票を除くあらゆる行政手続きがオンライン化され、国民もデジタルライフにすっかり慣れている。国民の医療データもオンラインで一括管理されており、これがコロナパスの土台となった。

そして大きかったのは、大規模な検査態勢をかなりのスピードで整えたことだ。検査には、PCR 検査と、20 分ほどで結果が届く簡易型の抗原検査 (鼻からの検体採取) の 2 種類があり、検査はすべて無料。政府は国民に対し、週に 2 回の検査をするよう推奨していて、1 日に 50 万人以上が検査を受けられるよう、全国に検査所と人員を一気に配置した。最近だと、1 日の受検者数が人口の約 3%にあたる約 20 万人なので、日本でいうと、1 日あたり 360 万人が検査を受けている計算になる。

ちなみにコロナパスは、ワクチン接種済みであることを証明する「ワクチンパスポート」ではない。ワクチンパスポートだと、何らかの理由でワクチン接種ができない人に対する差別の問題も懸念されるが、デンマークでは現時点でワクチンを 2 回接種済みの人は国民の約 10%。50 代以下では未接種の人が大半なので、今、バーなどに繰り出している多くの方は、コロナ検査の「陰性証明」の方を使っていることになる。PCR よりも精度は劣るにしろ、簡易検査を大量に行うことで社会の再開を目指す、という方法を取ったのも、いかにもデンマークらしい。

大規模な検査は、あくまで感染拡大を予防するという補助的手段 (感染者を減らしていくための主要な手段ではない) と捉えられているので、政府は今でも、集会人数の上限 (屋内 10 人、屋外 50 人) などの行動制限を続けており、「距離を空ける」「屋内ではマスク」といったこれまでの対応を変えないよう呼び掛けている。

それでも、国民の不満にどう向き合うかを考え、ロックダウンによって感染を抑制した後は、国民に頻繁な検査を促しながらワクチン接種を進めて感染レベルを低く維持しつつ、「コロナパス」で社会の再開も目指す—というデンマークの戦略は、国民に受け入れられている。

.....
抜粋引用: Buzz 記事 2021.5.2 report: 井上陽子 氏 (デンマーク在住の文筆家、コミュニケーション・アドバイザー。2015 年、米国からコペンハーゲンに移住。デンマーク人の夫と子供 2 人の 4 人暮らし)